# 機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

## Ⅰ．工 事 概 要

1　工事場所　東伯郡琴浦町大字浦安123-1

2　建物概要

| 番号 | 建物名称 | 構造 | 階数 | 建築基準法による延べ面積（㎡） | 消防法施行令別表第一の区分 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 社会福祉センター | S | 3 | | （ 4 ）項 | |
| 2 | | | | | （　　）項 | |
| 3 | | | | | （　　）項 | |
| 4 | | | | | （　　）項 | |
| 5 | | | | | （　　）項 | |

3　工事種目　（◉ 印の付いたものが対象工事種目）

| 工事種目＼番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 屋外 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ● 空気調和設備 | | | | | | | |
| ◉ 冷暖房設備 | ○ | | | | | | |
| ◉ 換気設備 | ○ | | | | | | |
| ● 排煙設備 | | | | | | | |
| ● 自動制御設備 | | | | | | | |
| ● 衛生器具設備 | | | | | | | |
| ◉ 給水設備 | ○ | | | | | | |
| ◉ 排水設備 | ○ | | | | | | |
| ◉ 給湯設備 | ○ | | | | | | |
| ◉ ガス設備 | ○ | | | | | | |
| ● 浄化槽設備 | | | | | | | |
| ● 消火設備 | | | | | | | |
| ● さく井設備 | | | | | | | |
| ● 電気設備工事 | | | | | | | |
| ● 建築工事 | | | | | | | |
| | | | | | | | |

4　設備概要　（本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。）
◉ 印の付いたものを適用する。

| | 項目 | 設備概要 |
|---|---|---|
| 空気調和・冷暖房設備 | ● 空気調和設備 | ● 単一ダクト方式　● 各階ユニット方式　● ダクト併用ファンコイルユニット方式<br>● ファンコイルユニット方式　◉ パッケージ方式 |
| | ◉ 冷暖房設備 | |
| | ● 暖房設備 | ● 温水暖房　● 蒸気暖房　● 温風暖房（ ● 局所式　● 中央式 ）　● 床暖房 |
| | ◉ 熱源 | ◉ 電気　● 灯油　● A重油　● ガス　● バイオマス |
| | ◉ 主要熱源機器 | ● 鋼製ボイラー　● 鋳鉄製ボイラー　● 真空式温水発生機　● 無圧式温水発生器<br>● チリングユニット　● スクリュー冷凍機　● 遠心冷凍機　● 吸収式冷凍機<br>● 直だき吸収式冷温水機　● 小形吸収式冷温水機ユニット<br>● バイオマスボイラー　● ルームエアコン<br>◉ ヒートポンプパッケージエアコン（ マルチタイプ　● 有　● 無 ）<br>● 温風暖房機　● FF暖房機　● その他（　　） |
| 換気設備 | | ● 第一種　● 第二種　◉ 第三種 |
| 排煙設備 | | ● 機械排煙（ 適用法規　● 建基法　● 消防法 ） |
| 自動制御設備 | | ● 電気式　● 電子式　● デジタル式 |
| 衛生設備 | ◉ 給水設備 | 給水方式：◉ 水道直結方式　● 高置水槽方式　● ポンプ直送方式　● 増圧給水方式<br>水源：◉ 水道水　● 井水 |
| | ◉ 排水設備 | 排水方式：● 自然流下　● ポンプ排水（ ● 汚水　● 雑排水　● 雨水 ）<br>放流先 汚水：● 公共下水道　● 浄化槽<br>放流先 雑排水：◉ 公共下水道　● 浄化槽<br>放流先 雨水：● 公共下水道　● 側溝　● 河川<br>浄化槽 処理方式：● 小規模合併　● 合併<br>浄化槽 処理水放流先：● 排水路　● 側溝　● 河川 |
| | ◉ 給湯設備 | ◉ 局所式（ ● ガス　● 油　◉ 電気 ）　● 中央式（ ● 油　● ガス　● 電気 ） |
| | ● 消火設備 | ● 屋内消火栓　● 屋外消火栓　● 連結送水管　● 連結散水<br>● スプリンクラー　● 泡消火　● 粉末消火装置<br>● 不活性ガス消火（ ● 窒素　● 窒素系　●　　）　● ハロゲン化物消火 |
| | ◉ ガス設備 | ● 都市ガス（　　MJ/Nm³ ）　◉ 液化石油ガス |

## Ⅱ．特 記 仕 様

### 1　一 般 事 項

（1）現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて ◉ 印の標準仕様等による。
- ● 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成３１年版）」（以下「標準仕様書」という。）
- ● 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成３１年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）
- ● 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（平成３１年版）」（以下「標準図」という。）

（2）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針（令和元年版）」（以下「監理指針」という。）を適用する。

（3）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

### 2　特 記 事 項

（1）項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。

（2）特記事項のうち選択する事項は ◉ 印の付いたものを適用する。
◉ 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。◉ 印と ㊙ 印の付いた場合は両方を適用する。

（3）一般共通事項のうち（ □ 印の付いた箇所） 項は、◉ 建築　● 電気設備　工事仕様書による。

| | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| 一般共通事項 | 1 官公署その他への手続 | 工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。 |
| | 2 電気保安技術者 | 工事現場におく電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規程第５条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第１編第１章第３節１．３．２によるものとし、一般用電気工作物にかかる工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。 |
| | 3 発生材の処理等 | 引渡しを要するもの　※ 無し<br>● 有り（　　）<br>特別管理産業廃棄物　※ 無し<br>● 有り（ ● 配管用保温材　●　　）<br>アスベスト含有設備資機材（ガスケット、パッキン、たわみ継手等）は関係法令に従い適切に処理を行う。<br>再生資源の利用を図るもの　※ 無し<br>● 有り（ ● コンクリート塊　● アスファルトコンクリート塊 ）<br>● 建設発生木材　●　　） |
| | 4 機材等 | イ）本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。<br>ロ）（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。 |
| | 5 機材の品質・性能証明 | ＪＩＳマーク等のある機材を使用する場合は、標準仕様書第１編第１章第４節１．４．２（c）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績等は除く。 |
| | 6 機材の承諾図 | 機械設備工事機材承諾図様式集（令和元年版）によるほか、監督員の指示による。 |
| | 7 施工図等 | 提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。 |
| | 8 完成写真等 | 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編　平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを提出する。 |

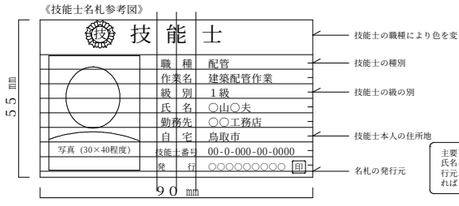
| 区分 | 分類・規格 | 撮影箇所 | 部数 | 電子データの提出 |
|---|---|---|---|---|
| 工事写真 | カラーサービス判 | 各工種工程毎 | ※ 1部　●　部 | ● 要　● 不要 |
| 完成写真 | カラーサービス判 | 監督職員の指示による | ※ 2部　●　部 | ● 要　● 不要 |

| | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| 一般共通事項 | 9 完成図等 | 次の図書を工事の完成引渡し時に監督職員に提出する。 |

| 区分 | 名称 | 部数 |
|---|---|---|
| ※ 完成図原図 | 完成図　● 原紙　※ CADデータ　※ PDFデータ<br>施工図　● 原紙　● CADデータ　● PDFデータ | 1部 |
| ※ 完成図　2つ折製本 | ※ 完成図<br>※ 完成図（縮小版）<br>● 施工図 | ※　2部<br>●　部 |
| ※ 完成図書<br>※　A4版市販ファイル<br>●　A4版黒表紙製本 | ● 完成図（縮小版）<br>※ 主要機器図<br>※ 試験成績書 | ※　2部<br>●　部 |
| ※ 保守用説明書<br>（A4版ファイル） | ※ 保守に関する指導案内書<br>※ 機器取扱説明書<br>※ 主要機器一覧表 | ※　2部<br>●　部 |
| ※ 保証書 | | 1部 |
| ※ 官公署の届出書類 | | 1部 |
| ● 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。 | | |

| | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| 一般共通事項 | 10 技能士の適用 | 下記により適用する技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業をするとともに他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行う。また、そのものが技能士であることが分かる名札（下図参考）を常時着用する。<br>● 配管（ ● 1級　● 2級 ）　● 熱絶縁施工（ ● 1級　● 2級 ）<br>● 冷凍空気調和機器施工（ ● 1級　● 2級 ）　● 建築板金（ ● 1級　● 2級 ） |

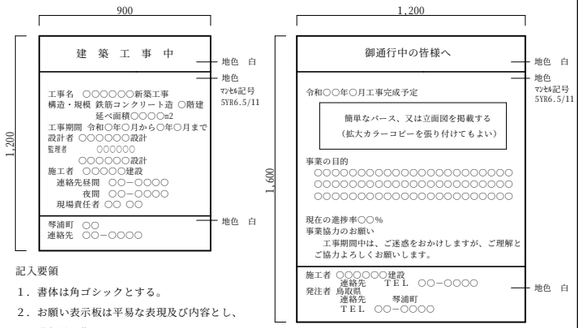
《技能士名札参考図》




| | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| 一般共通事項 | 11 他工事との取合 | 合併工事の場合は工種区分とする。 |

| 他工事との取り合い | | 建築 | 電気設備 | 機械設備 |
|---|---|---|---|---|
| ● コンクリート壁、床、梁貫通部 | スリーブ・箱入 | ● | ● | ※ |
| | 補強 | ※ | ● | ● |
| ● 鉄骨造の開口及び補強 | | ※ | ● | ● |
| ● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート（くぎ処理共） | | ● | ※ | ● |
| ● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地 | | ● | ※ | ● |
| ● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強 | 仮枠 | ● | ※ | ● |
| | 補強 | ※ | ● | ● |
| ● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強 | | ※ | ● | ● |
| ● 埋込形機器取付用の天井・壁の切込加工及び下地の補強 | 切り込み | ● | ● | ※ |
| | 補強 | ※ | ● | ● |
| ● 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ | | ※ | ● | ● |
| ● 電気室、自家発電室などの基礎及びピット（蓋を含む） | | ※ | ● | ● |
| ● 天井点検口 | | ※ | ● | ● |
| ● 機器類のコンクリート基礎 | 屋内・屋外設置 | ● | ● | ※ |
| | 屋上設置 | ※ | ● | ● |
| ● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線 | | ● | ● | ※ |
| ● 機器用コントロールスイッチ（空調機、給湯器等）の取付及び配線 | | ● | ● | ※ |

| | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| 一般共通事項 | 12 工事用水・電力・その他 | 本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。 |
| | 13 表示板 | 設ける。（寸法等は下図による。建築工事、電気設備工事等と一括して表示する。）<br>※ 工事表示板　● お願い表示板 |




記入要領
1．書体は角ゴシックとする。
2．お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督員が指示するものとする。

| | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| 一般共通事項 | 14 工事用仮設物 | 構内に作ることが　※ 出来る　● 出来ない<br>（ア）埋め戻し土　● 根切土のなかの良質土（ ● コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類 ）<br>● 山砂の類（　　）<br>● 真砂土（　　）<br>（イ）建設発生土処分　● 構外に搬出　● 構内に敷ならし　● 構内の指示する場所に堆積 |
| | 15 土工事 | 「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説・平成８年版」（建設大臣官房官庁営繕部監修）によることとし、施工は「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（国土交通省国土技術政策総合研究所・(独)建築研究所監修)による。<br>設計用水平地震力は、機器の荷重（kN)に、地域係数、設計用標準水平震度を乗じたものとする。<br>図面に特記のない場合、設計用標準水平震度は次による。 |

| | | ● 特定の施設 | | ● 一般の施設 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 設置場所 | 機器種別 | ● 重要機器 | ● 一般機器 | ● 重要機器 | ● 一般機器 |
| 屋上、塔屋 | 機器 | 2．0 | 1．5 | 1．5 | 1．0 |
| | 防振設置機器 | 2．0 | 2．0 | 2．0 | 1．5 |
| | 水槽類 | 2．0 | 1．5 | 1．5 | 1．0 |
| 中間階 | 機器 | 1．5 | 1．0 | 1．0 | 0．6 |
| | 防振設置機器 | 1．5 | 1．5 | 1．5 | 1．0 |
| | 水槽類 | 1．5 | 1．0 | 1．0 | 0．6 |
| 地階・1階 | 機器 | 1．0 | 0．6 | 0．6 | 0．4 |
| | 防振設置機器 | 1．0 | 1．0 | 1．0 | 0．6 |
| | 水槽類 | 1．5 | 1．0 | 1．0 | 0．6 |

重要機器　● 防災機器　● 火気を使用する機器　● タンク類
注）設計用鉛直地震力は水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

| | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| 一般共通事項 | 16 耐震措置 | |
| | 17 図形等の表示 | 機器類は、図示する形状、配管等などの取出し位置及び製造品番により、特定製造者の製品を指示、限定しない。 |
| | 18 電気容量及び機器表示 | 機器類の能力、容量等は、原則として表示された値以上とする。<br>電動機出力、燃料消費量等は、原則として図面に記載されている値以下とする。 |
| | 19 保温工事 | ● 冷温水管（ ● ロックウール　● グラスウール　● ポリスチレンフォーム　●　　）<br>● 蒸気管（ ● ロックウール　● グラスウール　●　　）<br>◉ 給水管（ ● ロックウール　● グラスウール　● ポリスチレンフォーム<br>◉ 保温チューブ（厚さ@ 10 ）　●　　）<br>● 排水管（ ● ロックウール　● グラスウール　● ポリスチレンフォーム　●　　）<br>● 給湯管（ ● ロックウール　● グラスウール　● 保温チューブ（厚さ@　　）　　）<br>● 消火管（ ● ロックウール　● グラスウール　● ポリスチレンフォーム　●　　）<br>◉ ダクト（ ◉ ロックウール　◉ グラスウール　●　　）<br>● 燃焼熱源等機械室内の配管（ ● ロックウール　● グラスウール ）<br>● 全熱交換機の給気ダクト（ ● 機器外気側　● 機器室内側 ）は保温（グラスウール２５㎜厚）する。<br>● 冷媒管の保温外装　屋内（ ● 樹脂製化粧ケース　● 合成樹脂製シート　●　　）<br>屋外（ ● 樹脂製化粧ケース　● SUS鋼板　●　　） |

特記事項

1級建築士登録第３０４９００号　安谷潔美

| 日付 | 縮尺 | 製図 |
|---|---|---|
| R4.2 | - | |


カノン設計室
〒689－2352 鳥取県東伯郡琴浦町浦安３７０
KANNON　TEL 0858-52-1175　FAX 0858-52-1176


工事名　浦安地区公民館移転改修工事

図面名　機械設備工事特記仕様書(1)

図面NO　M-1　機械

## 一般共通事項

| | |
|---|---|
| 20 鋼管類の防食処置 | 地中埋設　● ベトロタム系　● プチルゴム系　● 熱収縮チューブ及びシート |
| 21 絶縁継手 | ● 標準図（施工３）　（ ●（1）絶縁フランジ　●（2）絶縁シート　） |
| 22 防振継手 | ※ 合成ゴム製（球形）　● ポリテトラフルオロエチレン製　● ベローズ形（ステンレス製） |
| 23 伸縮管継手 | ※ ベローズ形　● スリーブ形 |
| 24 塗装 | 各種機材のうち、下記の部分は塗装しない。（さび止め塗装は除く。）<br>（ア）埋設されるもの（ただし、防食塗装部分を除く）<br>（イ）亜鉛めっき以外のめっき仕上げ面<br>（ウ）亜鉛めっきされたもので、常時隠ぺいされる部分<br>（エ）亜鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類<br>（オ）樹脂コーティング等を施したもので、常時隠ぺいされる部分<br>（カ）カラー亜鉛鉄板面<br>（キ）アルミ、ステンレス、銅、溶融アルミニウムー亜鉛鉄板面、合成樹脂製等、特に塗装の必要を認められない面<br>（ク）特殊な意匠的表面仕上げ処理を施した面<br>（ケ）主・各階機械室内等及び電気室内の亜鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管<br>● 上記及び標準仕様書によらず塗装を施す部分・箇所（　　） |
| 25 ステンレス鋼管の接合方法 | 呼び径６０Ｓｕ以下の継手は、ＳＡＳ３２２による拡管式とする。 |
| 26 溶接配管の検査 | ● ガス配管　● 冷温水配管　● 冷却水配管<br>非破壊検査の適用（ ● 放射線透過検査　● 浸透探傷検査又は磁粉探傷検査　）<br>抜取率（ ● 標準仕様書による　●　％　） |
| 27 埋設表示 | ● 地中埋設標を図示する箇所に設ける。<br>● 埋設表示用テープを埋設する。（ ● ガス管　● 屋外給水管　●　） |
| ㉘支持金物・固定金具 | ボンプ、屋外設置機器及びピット内に使用するアンカーボルト、ナットはＳＵＳ３０４製とする。<br>屋外及びピット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上げとする。 |
| ㉙総合試運転調整 | 下記事項の総合調整を行い、測定結果を監督職員に提出する。<br>◉ 温度　● 湿度　● 風量　● 騒音　● 水量　● 浄化槽放流水質<br>● 風速　● じんあい　● 飲料水水質（ ● 一般飲料水適否検査　● 残留塩素　）<br>● その他等（ ● 雑用水　● 空調用流体　●　） |
| 30 アスベスト含有建材の処理 | 建築改修標準仕様書　９章 環境配慮改修工事　１節 アスベスト含有建材の処理工事による。<br>処理を行うアスベスト含有建材の仕様等 |

| 建材の内容・箇所 | 仕様等 | 処理を行う範囲 |
|---|---|---|
| | | |
| | | |
| | | |

| | |
|---|---|
| | ※　県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者を活用するものとする。<br>※　官公署その他への手続きは、建築改修標準仕様書ほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。<br>●　洗浄設備（洗眼、うがいの設備）及び更衣設備等を設ける。<br>●　作業場の養生として、処理場所をプラスティックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。 |
| ㉛補修など | 工事の施工に伴い既成部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならい補修する。 |
| ㉜はつり | 既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。 |
| 33 はつり工事における非破壊検査 | 探査方法　※電磁誘導式　● 放射線透過検査 |
| 34 足場 | 足場の設置は、「手すり先行工法に関するガイドラインについて」（厚労省 基発第0424001号平成21年４月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する足場とし、足場の組立て等の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 |
| 35 工事安全計画書等 | 建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。 |
| 36 室内空気中の化学物質の濃度測定 | 実施する。 |
| ㊲火災保険等 | 工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。<br>（保険の加入期限は、工事完成引渡しまで[概ね工期＋21日]とする。） |
| 38 グリーン購入 | グリーン購入は次のもとのすると。（　　）<br>● 空調用機器（　　）　● 衛生器具（　　）<br>● 断熱材（　　）　● 配管材（ ● 再生硬質塩化ビニル管<br>● その他（　　） |
| 39 鳥取県公共工事環境配慮指針 | 対象工事 |
| 40 建築物省エネ法 | 対象工事 |

## 1 空気調和設備

| | |
|---|---|
| 1 設計用温湿度条件 | |

| | 外気条件 | | | | 室内（調整目標値）一般（　） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 温度 | | 湿度 | | 温度 | | 湿度 | | 温度 | | 湿度 | |
| | （DB） | | （RH） | | （DB） | | （RH） | | （DB） | | （RH） | |
| 夏季 | | ℃ | | % | 28.0 | ℃ | | % | | ℃ | | % |
| 冬季 | | ℃ | | % | 19.0 | ℃ | | % | | ℃ | | % |

## ② 冷暖房設備

| | |
|---|---|
| 2 冷却水管 | ※ ＳＧＰ（白）　● ＳＧＰ－ＶＡ　● ＳＧＰ－ＰＡ |
| 3 冷水・温水・冷温水管 | ※ ＳＧＰ（白）　● ＳＧＰ－ＨＶＡ　● ステンレス鋼管（SUS304）<br>● 架橋ポリエチレン管（ファンコイル機器接続部に限る）　● ポリブテン管（ファンコイル機器接続部に限る） |
| 4 膨張・空気抜・補給水管 | ※ ＳＧＰ（白）　● ステンレス鋼管（SUS304） |
| 5 蒸気給気管 | ※ ＳＧＰ（黒） |
| 6 蒸気還水管 | ※ ＳＴＰＧ３７０－Ｓｃｈ４０（黒）　● ステンレス鋼管（SUS304） |
| 7 油・油用通気管 | 一般配管　※ ＳＧＰ（黒）　地中配管　※ 合成樹脂被覆鋼管 |
| ⑧冷媒管 | ※ 断熱材被覆銅管 |
| 9 空調用給水管 | ● ステンレス鋼管　● ＳＧＰ－ＶＡ　● |
| ⑩空調用排水管 | ※ ＳＧＰ（白）　◉ ＶＰ |
| 11 弁類 | ※ ５Ｋ　● １０Ｋ |

## ③ 換気設備

| | |
|---|---|
| 12 ファンコイルユニット | ※ 流量調整弁　● 定流量弁（ ● ダイヤフラム式流量可変式　● カートリッジオリフィス形　）を取付ける。 |
| 13 ダンパー | （ア）防煙ダンパー　※ 遠隔復帰式　● 電気式　（動作用電圧、電流はＤＣ２４Ｖ、０．７Ａ以下とする。）<br>（イ）ピストンダンパー　※ 遠隔復帰式　● |
| ⑭ダクト | ※ 低圧ダクト　● 高圧１ダクト　● 高圧２ダクト<br>● 長方形ダクト　● コーナーボルト工法（ ● 共板工法　● スライドオンフランジ工法　）<br>（長辺１５００㎜を超えるものはアングルフランジ工法とする。）<br>● アングルフランジ工法<br>● 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後１５０㎜を１．６㎜厚鋼板製とする。 |
| ⑮吹出口・吸込口 | ボックス　※ 亜鉛鉄板製　● グラスウール製 |
| 16 チャンバー等 | シーリングディフューザーの接続は、標準図（施工４７）を参考とする。<br>接続するダクトの施工が困難な場所はフレキシブルダクトを使用してもよい。<br>線状吹出口には、（長さ＋１００）× ３００ × ３００Ｈの接続チャンバーを設ける。<br>外壁に面するガラリにチャンバー等を設ける場合には、雨水等を自然に排出できるよう勾配をつける。 |
| ⑰消音内貼り | 吹出口接続チャンバー及び図示したダクト並びにチャンバー類に内貼する。<br>内貼りチャンバー類の寸法は、外法寸法とする。<br>吹出口接続チャンバー以外の内貼りしたチャンバーには点検口（原則４００×６００）を取付ける。 |
| 18 瞬間流量計及び流量測定口 | 形式はピトー管式（コック付）とする。　● 着脱式　● 固定式<br>下記の箇所、若しくは図示により取付ける。<br>● 冷凍機類の冷水出口　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング<br>● 冷凍機類の冷却水出口　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング<br>● ボイラー又は熱交換器の温水出口　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング<br>● 冷温水ヘッダーの各送り管　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング<br>● ユニット形空気調和機の冷温水入口　● 瞬間流量計　● 測定用タッピング |
| 19 定風量・変風量ユニット | ● メカニカル形　● 風速センサー形 |
| 20 温度計 | 機器付属以外の温度計　※ 工業用バイメタル式　● ガード付Ｌ形温度計 |
| 21 冷温水管の空気抜き | 空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。<br>※ 手動　● 自動<br>自動空気抜き弁装置は標準図による。（施工３６（ｇ））<br>機械室の手動式空気抜き配管の保温は分岐から２ｍの範囲とする。 |
| 22 空調機用トラップ | トラップ形式はフロートボール式（床置型）　※ ＦＲＰ製保温型　● ＦＲＰ製　● ＳＵＳ製 |
| 23 鋼板製煙道 | 材質及び厚さ　● ＳＳ４００（ ※ ３．２㎜　● ４．５㎜ ）　● ＳＵＳ（ ※ １．５㎜　● ２．０㎜） |
| | 煤煙濃度計　● 取付ける　● 取付けない　● 取付座を付ける<br>煤じん量測定口（８０φ×２）　※ 取付ける　● 取付けない |
| 24 オイルサービスタンク | 油面計はゲージ式（側圧計）とする。 |
| 25 地下オイルタンク | 据付け方法　● 標準図（施工３０）（二重殻タンク・タンク室無し）　● 標準図（施工３１）（タンク室有り）<br>タンクの保護被覆　※ 強化プラスチック　● エポキシ樹脂　● アスファルト<br>基礎杭　※ 不要　● 要（ ※ 別途工事　● 本工事 ）<br>土留め工事　● 要　● 不要<br>タンクローリー用アース端子を設ける。 |
| 26 油面制御装置 | 油面制御装置の機能　● 給油ポンプの起動停止　● 満油警報　● 減油警報　● |
| 27 フィルター等付属品 | ● 機器表特記による。<br>● 空気調和機のフィルターは、ロールの場合は１本、ユニットの場合は１セットを付属品として納入する。 |
| 28 パッケージ空調機の能力表示 | インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 |
| 29 防振吊り及び支持金物 | 標準仕様書によるほか、中央機械室の冷却水管、冷温水管等の吊り及び支持は防振吊り金物又は防振支持金物で行う。 |

## 4 排煙設備

| | |
|---|---|
| 1 ダクト | ※ 亜鉛鉄板製　● 鋼板製（厚1.6㎜） |
| 2 排煙口 | 形状　● パネル形　● スリット形　● ダンパー形<br>取付け　● 天井取付　● 壁取付 |
| 3 排煙口開放及び復帰方式 | 電気式（遠隔操作　※ 不要　● 要 ） |
| 4 排煙風量測定 | 建築設備定期検査業務基準書2016年版（（一財）日本建築設備・昇降機センター）の検査方法に準ずる。 |

## 5 自動制御設備

| | |
|---|---|
| 1 中央監視制御盤装置 | ● 有り（構成機能は、図示による）　● 無し |
| 2 電源装置 | ● 要（ ● 本工事　● 別途工事 ）　● 不要 |
| 3 温度調節器等 | 取付高さ　※ １３００㎜　●　㎜ |
| 4 計装工事の配線 | ● 屋外、屋内露出の配線は、図面に表記のない限り金属管配線とする。<br>● 天井隠ぺいの配線は、図面に表記のない限りケーブル配線とする。 |

## 6 衛生器具設備

| | |
|---|---|
| 1 衛生器具の参考品番 | 型番変更により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考品番の同等品以上のものとする。 |
| 2 大便器 | ※ 節水形　● 標準形 |
| 3 小便器 | ● 自動洗浄（ ●AC100V　●乾電池　●自己発電）　● 手動洗浄　● 洗浄水量４ﾘｯﾄﾙ／回以下 |
| 4 自動水栓 | 電源供給方式　● ＡＣ１００Ｖ　● 乾電池　● 自己発電 |
| 5 和風便器の耐火処理 | 標準図（施工６６）の（ｂ） |

## ⑦ 給水設備

| | |
|---|---|
| ①量水器 | ◉ 親メーター　※ 借用　● 買取　（ ※ 直読　● 遠隔表示 ）<br>● 子メーター　※ 買取　● 借用　（ ※ 直読　● 遠隔表示 ） |
| ②配管材料 | （ア）一般配管　● ＳＧＰ－ＶＢ　● ＳＧＰ－ＰＢ　● ＳＵＳ３０４　● ＳＵＳ３１６<br>◉ ＨＩＶＰ　● 架橋ポリエチレン管<br>（イ）土間配管　● ＳＧＰ－ＶＤ　● ＳＧＰ－ＰＤ　● ＨＩＶＰ　● ＳＵＳ３０４　● ＳＵＳ３１６<br>（ウ）屋外埋設配管　● ＳＧＰ－ＶＤ　● ＳＧＰ－ＰＤ　● ＨＩＶＰ　● ＳＵＳ３０４　● ＳＵＳ３１６<br>● 水道配水用ポリエチレン管（７５～１００Ａ）　● 水道用ポリエチレン二層管（５０Ａ以下）<br>（エ）特記なき給水管の最小口径は20Ａとする。<br>（オ）ビニル管の接合方法　※ 接着接合　● ゴム輪接合（直管以外の継手部には離脱防止金具取付とする。）<br>（カ）ポリエチレン管の接合方法　50A以下　※ 金属製継手　● 融着継手　75A以上　※ 融着継手 |
| 3 弁類 | ※ 口径６５Ａ以上の仕切弁及び逆止弁は、ライニング弁とする。<br>● ５Ｋ（受水槽以降の配管に使用）　● １０Ｋ（公営水道に直結する配管に使用）<br>● 公営水道事業者指定の止水栓又は弁（給水引込部に使用） |
| 4 水槽のマンホール | 屋外に設置する水槽のマンホール蓋は保温形（二重蓋含む）とする。 |

## ⑧ 排水設備

| | |
|---|---|
| ①配管材料 | （ア）屋内汚水管　● ＶＰ　● ＲＦ－ＶＰ　● 排水用塩ビライニング鋼管　● 耐火二層管<br>（イ）屋内雑排水管　◉ ＶＰ　● ＲＦ－ＶＰ　● ＳＧＰ（白）　● 排水用塩ビライニング鋼管<br>● 耐火二層管<br>（ウ）ポンプ排水管　● ＶＰ（水道用）　● ＨＩＶＰ　● 排水用塩ビライニング鋼管（圧送排水鋼管用継手）<br>（エ）通気管　● ＶＰ　● ＲＦ－ＶＰ　● ＳＧＰ（白）　● 排水用塩ビライニング鋼管<br>（オ）屋外排水管　● ＶＰ　● ＲＦ－ＶＰ　● ＶＵ（地中）　● ＲＥＰ－ＶＵ（地中）<br>● ＲＳ－ＶＵ　● 卵形管　● コンクリート管 |
| 2 満水試験継手 | ３階以上にわたる排水管立て管に満水試験継手を　※ 取付ける　● 取付けない |
| 3 パイプシャフト内配管の保温 | ※ 施工する　● 施工しない |
| 4 煙試験 | ※ 行なわなくてもよい　● 図示の系統のみ行なう |

## ⑨ 給湯設備

| | |
|---|---|
| 1 配管材料 | ● ＳＧＰ－ＨＶＡ　● ステンレス鋼管　● 架橋ポリエチレン管<br>● 保温付被覆銅管　● 銅管<br>湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。 |
| 2 弁類 | ※ ５Ｋ　● １０Ｋ |

## 10 消火設備

| | |
|---|---|
| 1 配管材料 | （ア）一般配管　● ＳＧＰ（白）　● ＳＴＰＧ<br>（イ）土間下配管　● ＳＧＰ－ＶＳ　● ＳＴＰＧ－ＶＳ<br>（ウ）屋外埋設配管　● ＳＧＰ－ＶＳ　● ＳＴＰＧ－ＶＳ |
| 2 弁類 | ※ １０Ｋ　● １６Ｋ |
| 3 保温 | （ア）呼水タンク　※ 施工しない　● 施工する<br>（イ）充水タンク　※ 施工しない　● 施工する<br>（ウ）配管の保温は次による。（屋外露出箇所は種別ｅ３・（ハ）・Ⅶによる）<br>● 屋内消火栓用（ ※ 施工しない　● 施工する ）　● スプリンクラー用（ ※ 施工しない　● 施工する ）<br>● 連結送水用（ ※ 施工しない　● 施工する ）　● 連結散水用（ ※ 施工しない　● 施工する ） |
| 4 屋内消火栓 | ● 広範囲型２号消火栓　● 易操作性１号消火栓　● 屋内消火栓（ ● １号　● ２号 ） |
| 5 ガス系消火剤の種類 | ● 窒素　● ＩＧ－５４１　● ＩＧ－５５　● ＨＦＣ－２２７ｅａ　● ＨＦＣ－２３ |
| 6 ガス系消火の起動方式 | ※ 手動　● 自動手動切替式 |

## ⑪ ガス設備

| | |
|---|---|
| 1 都市ガス設備 | 都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。 |
| 2 配管材料 | （ア）一般配管　※ ＳＧＰ（白）　● 合成樹脂被覆鋼管<br>（イ）土間下配管　※ 合成樹脂被覆鋼管<br>（ウ）屋外埋設配管　※ 合成樹脂被覆鋼管　● ガス用ポリエチレン管 |
| 3 ガスメータ | ● 親メーター　※ 借用　● 買取　（取付け　※ 別途　● 本工事 ）<br>● 子メーター　※ 買取　● 借用　（取付け　※ 本工事　● 別途 ） |
| 4 バルク貯槽 | ● 縦型　● 横型　● 借用　● 買取 |
| 5 容器廻りの配管 | ● 標準図（施工７２）の　● 要領（ａ）　● 要領（ｂ）　● 要領（ｃ） |
| 6 容器転倒防止 | ● 標準図（施工７３）の　● 要領（ａ）　● 要領（ｂ） |
| 7 ガス漏れ警報器 | ● 不要　● 要（ ※ 別途工事　● 本工事 ） |

## 12 浄化槽設備

| | |
|---|---|
| 1 処理種別及び方式 | ● 小規模合併処理（ ● 分離接触ばっ気方式　● 嫌気ろ床接触ばっ気方式　● 脱窒ろ床接触ばっ気方式<br>● その他性能評価を受けた方式（　　）　）<br>● 合併処理（ ● 接触ばっ気方式　● 長時間ばっ気方式　● 回転板接触方式 ） |
| 2 型式 | ● ユニット型　● 現場施工型 |
| 3 処理能力 | ● 処理対象人員　人　● 処理水量　㎥／ｄ |
| 4 放流水の水質 | ● 流入ＢＯＤ　２００ｍｇ／Ｌ　● 放流水質ＢＯＤ　２０ｍｇ／Ｌ以下<br>● Ｔ－Ｎ　ｍｇ／Ｌ以下　● Ｔ－Ｐ　ｍｇ／Ｌ以下 |
| 5 排水方式 | ※ 自然流下　● ポンプ排水 |
| 6 埋戻し土 | ● 砂　● 根切土の中の良質土 |
| 7 土留め工事 | ● 不要　● 要（図示による） |
| 8 マンホールふた | ※ 製造者標準仕様（ロック式）　● ＭＨＡ型（ボルト式） |
| 9 消毒薬 | ３ヶ月相当分を納入する。 |

特記事項


1級建築士登録第３０４９００号　安谷潔美

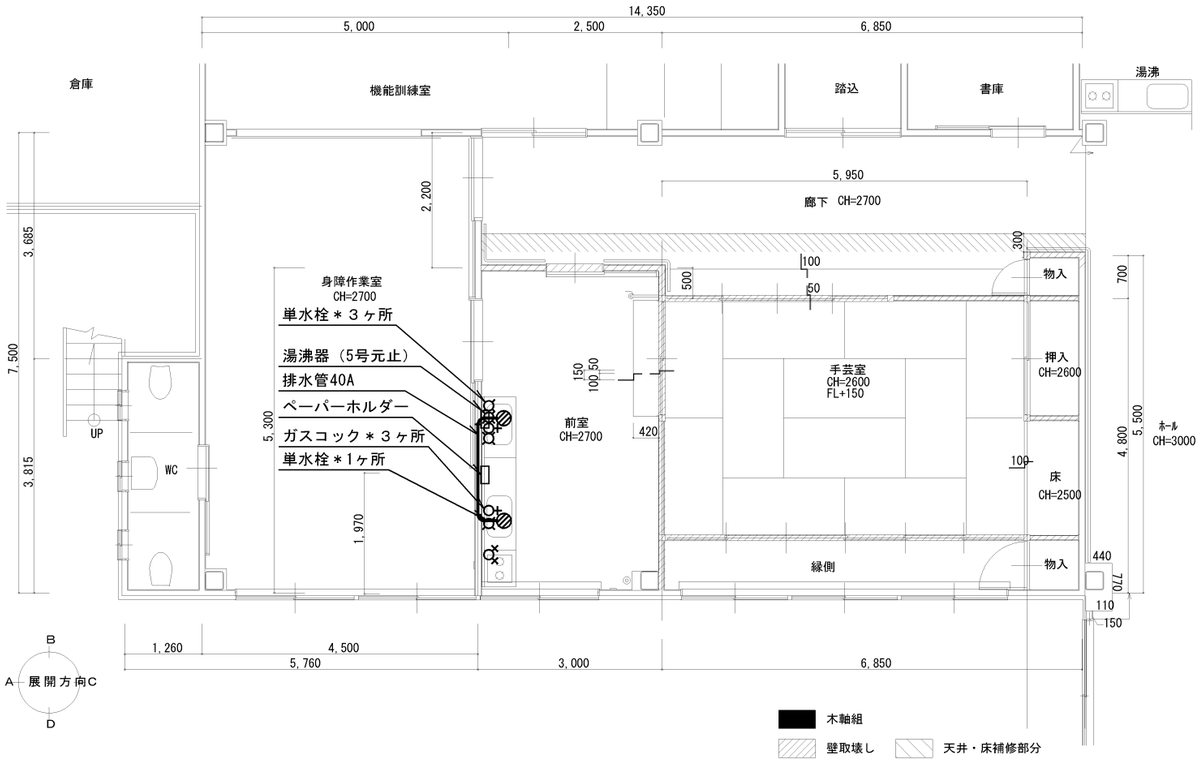
カノン設計室
〒689－2352　鳥取県東伯郡琴浦町浦安３７０
KANNON　TEL 0858-52-1175　FAX 0858-52-1176


| 日付 | 縮尺 | 製図 |
|---|---|---|
| R4.2 | － | |

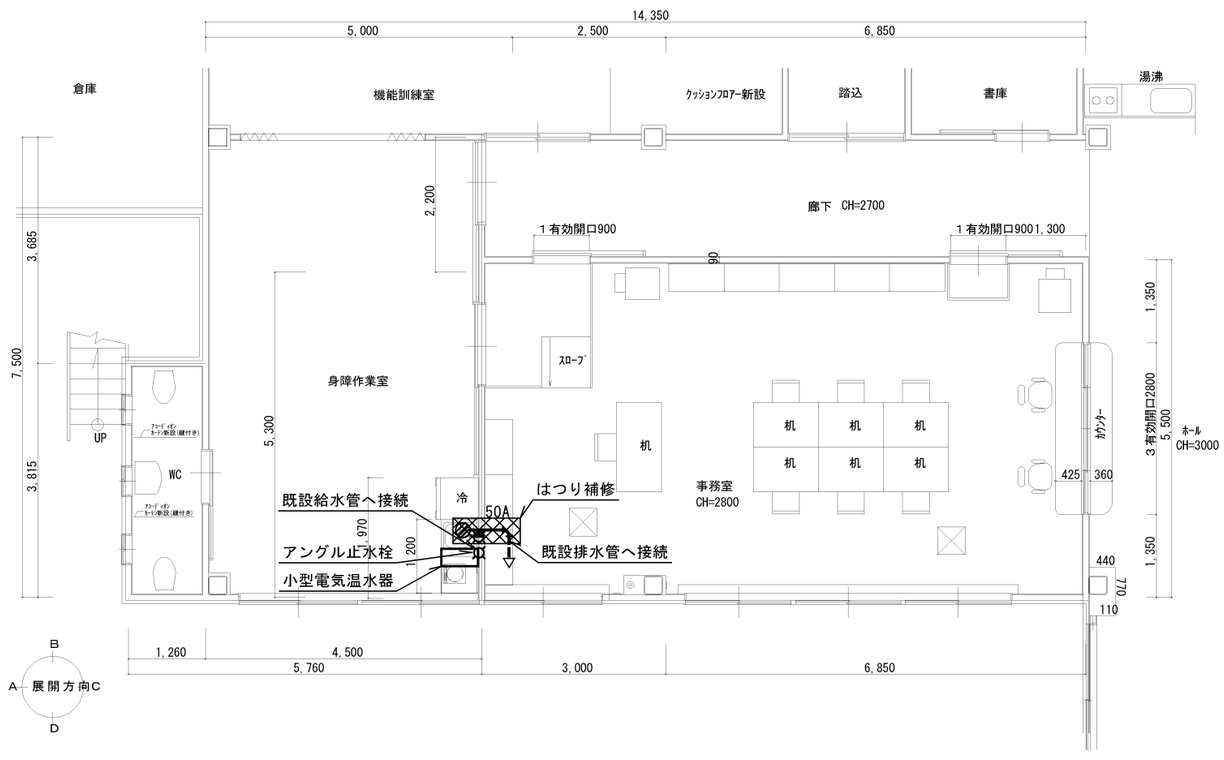
工事名：浦安地区公民館移転改修工事

図面名：機械設備工事特記仕様書(2)

図面NO：M-2　機械




既 存 平 面 図 1/100




改 修 後 平 面 図 1/100

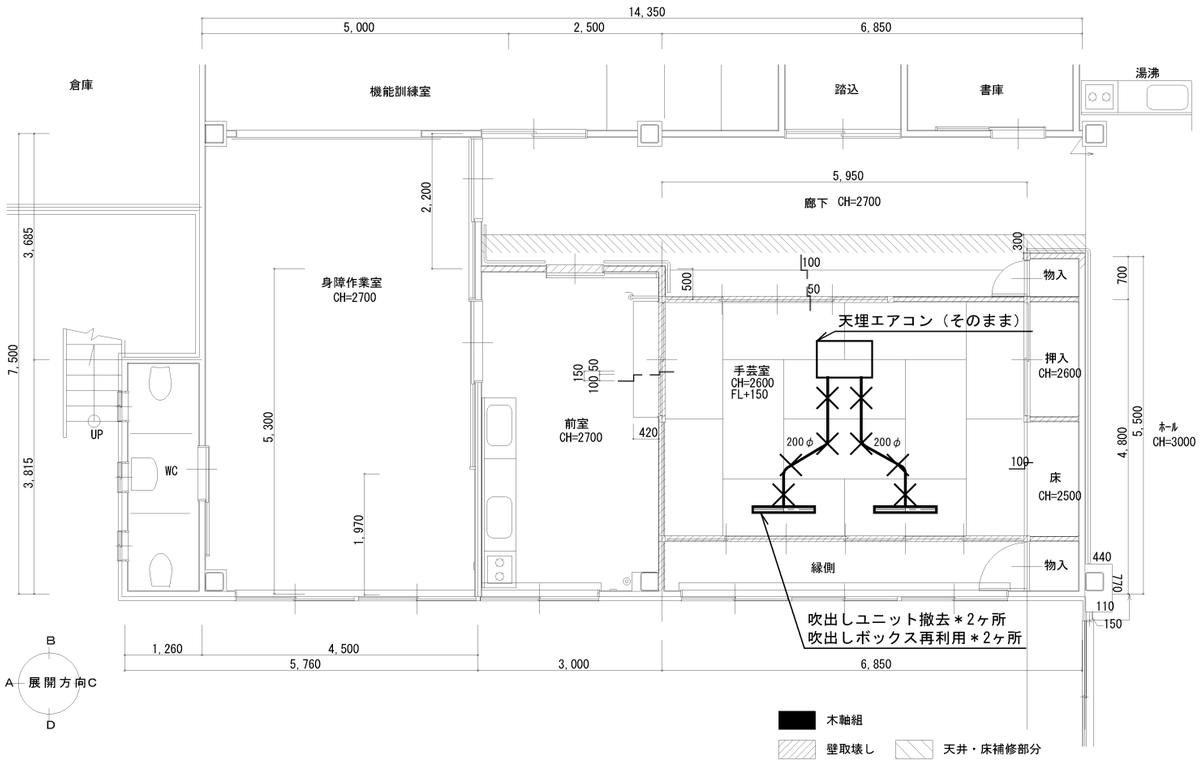
注 記

1.撤去・壁内キャップ止め

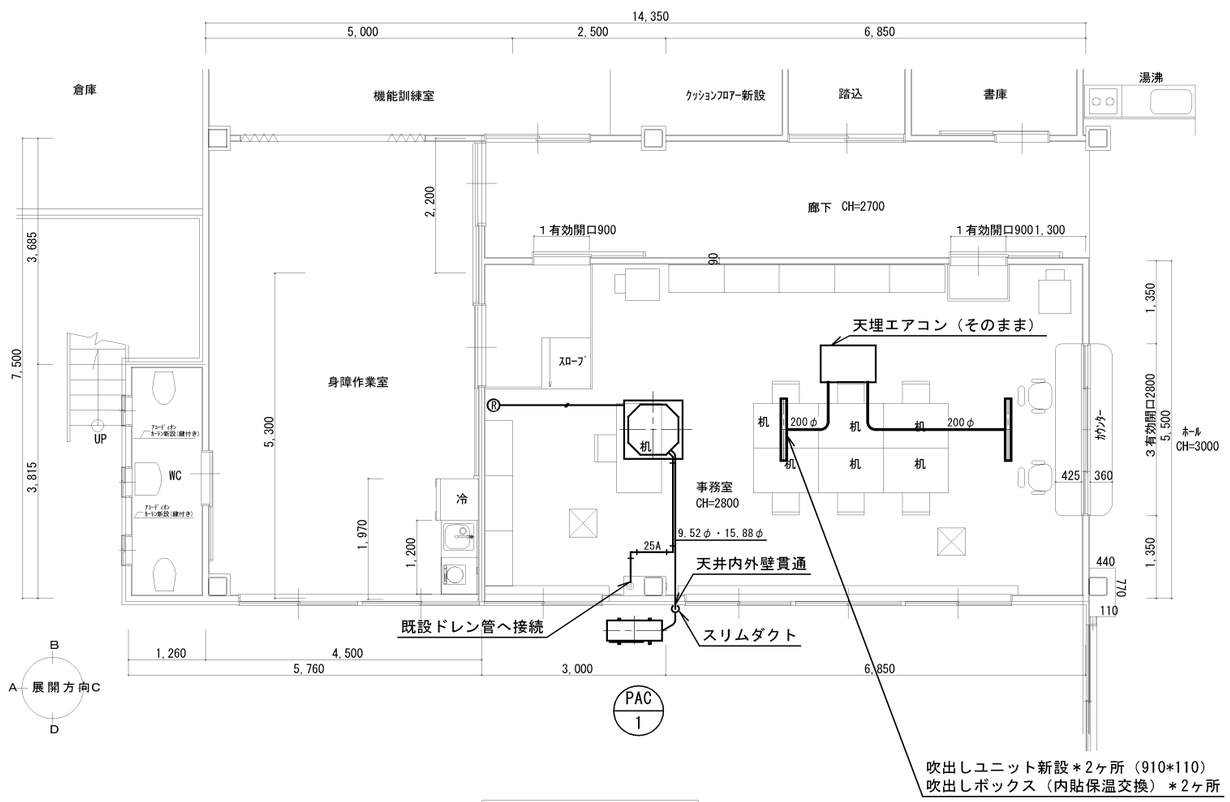
機器表

| 機器名 | 型番・仕様 | 数量 |
|---|---|---|
| 小型電気温水器 | 容量：6L　先止め据付タイプ | 1 |
| | 電源：1φ100V　1100W | |
| | 付属品：耐震用脚・密閉式排水ホッパー | |
| | 参考型番：REW06A1BHSCM | |
| ミニキッチン | 建築工事（混合水栓共） | 1 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1級建築士登録第３０４９００号 安谷潔美 | 住空間デザイン KANNON カノン設計室 TEL 0858-52-1175 FAX 0858-52-1176 | TITLE 浦安地区公民館移転改修工事 | NO M — 3 |
| DATE / CHIEF / DRAW R4.1 | | 給排水設備　撤去・改修図（事務室）　S=1:100 | DRAWING NO |




既 存 平 面 図 1/100




改 修 後 平 面 図 1/100

注 記

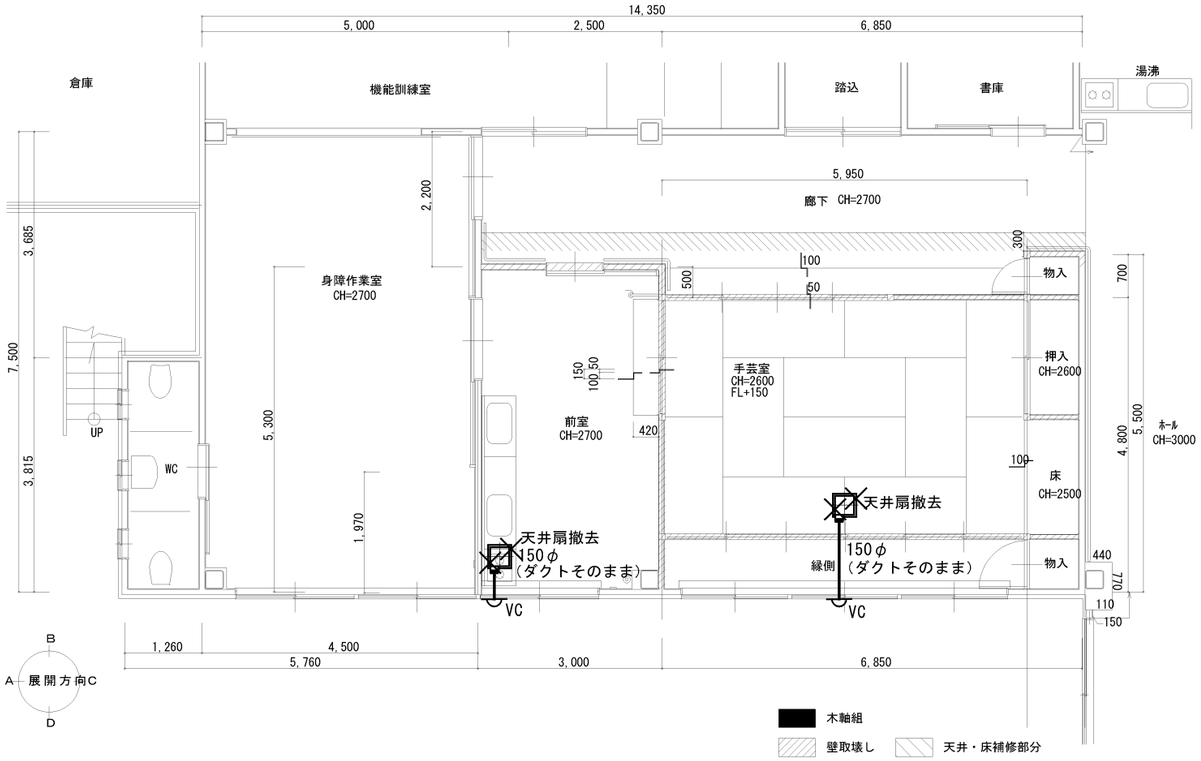
1.図中特記なきは、下記の通りとする。

╳ 撤去

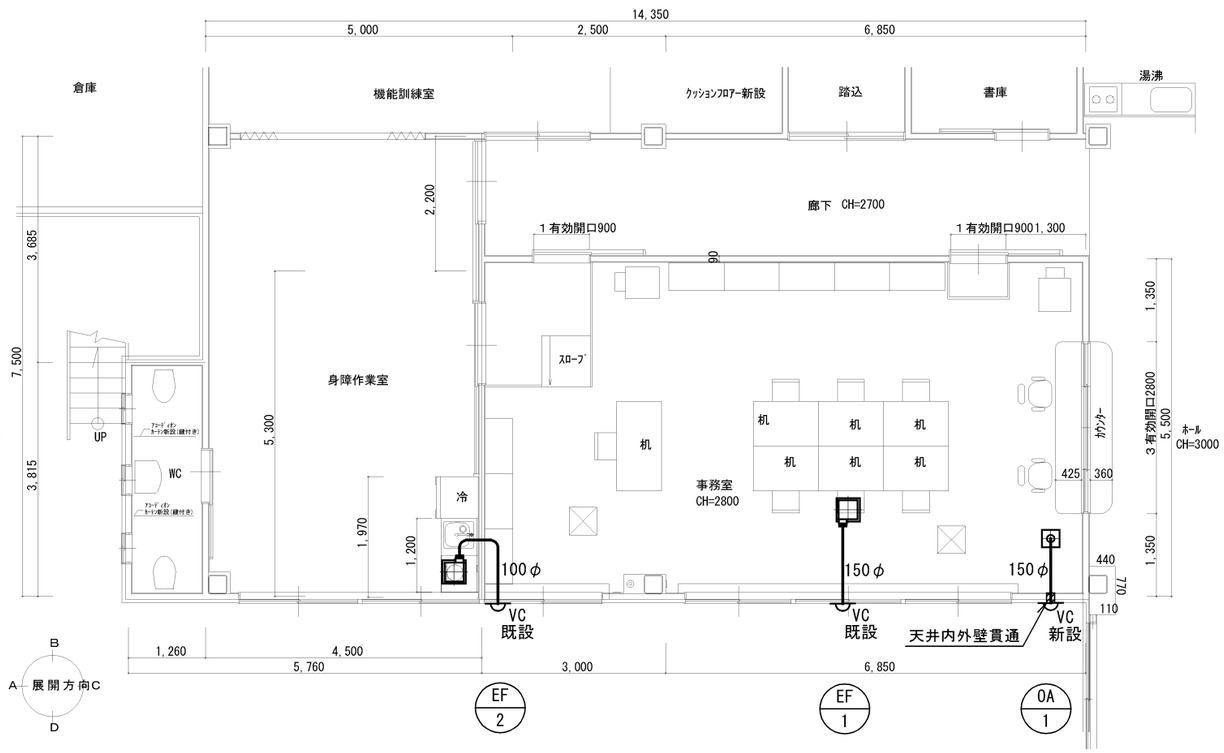
機器表

| 機器番号 | 型番・仕様 | 数量 |
|---|---|---|
| PAC-1 | 空冷ヒートポンプパッケージエアコン（耐重塩害仕様） | 1 |
| | 天井カセット型４方向吹出タイプ | |
| | 冷房能力：7.1KW　暖房：8.0KW　電源：１φ　200V | |
| | CON出力：1.4kw　FAN出力：120w・86w | |
| | 付属品：ワイヤードリモコン・平地用架台300H・歩車道ブロック | |
| | 参考型番：FDTZ805HK5SA | |
| | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| １級建築士登録第３０４９００号 安谷潔美 | DATE | CHIEF | DRAW R4.1 | |
| 住空間デザイン KANNON カノン設計室 TEL 0858-52-1175 FAX 0858-52-1176 | | | | |
| TITLE 浦安地区公民館移転改修工事 | | | | NO M — 4 |
| 冷暖房設備　撤去・改修図（事務室）　S=1:100 | | | | DRAWING NO |




既 存 平 面 図 1/100




改 修 後 平 面 図 1/100

注 記

1.図中特記なきは、下記の通りとする。

╳ 撤去

機器表

| 機器名 | 型番・仕様 | 数量 |
|---|---|---|
| EF-1 | 天井扇 (参考型番 VD-18ZEP12-FP) | 1 |
| | 能力：150φ ＊ 300 CHM ＊ 40 Pa | |
| EF-2 | 天井扇 (参考型番 VD-13ZVY5) | 1 |
| | 能力：100φ ＊ 120 CHM ＊ 40 Pa | |
| OA-1 | 給気口 150φ (参考型番 P-18GLF6) | 1 |
| | アルミ製 深型フード (防虫網付) (参考型番 P-18VAQ4) | |
| | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1級建築士登録第304900号 安谷潔美 | DATE | CHIEF | DRAW R4.1 | 住空間デザイン KANNON カノン設計室 TEL 0858-52-1175 FAX 0858-52-1176 | TITLE 浦安地区公民館移転改修工事 / 換気設備 撤去・改修図（事務室） S=1:100 | NO M — 5 / DRAWING NO |